

シルバーライフ 清水貴久社長インタビュー

低価格で利用できる配食サービス

全国で配食事業を展開するシルバーライフ(東京都新宿区)は10月25日に東京証券取引所マザーズに上場した。2017年7月期決算では売上高52億4500万円(対前年26.4%増)、その内高齢者施設等への食材販売の売上高も7億3800万円(同60.3%増)と伸ばしている。同社の清水貴久社長が事業内容と、今後の展望を聞いた。



配食時に、QRコードを活用した見守り開始

当社は2009年より、高齢者向けの配食事業を開始し、現在、在宅高齢者向けの「まごころ弁当」「配食のふれ愛」と、高齢者施設向けの食材販売「まごころ」の3つの事業を展開している。

「まごころ食材サービス」を提供している。調理は全て自社工場で行い、各FC加盟店舗へ配送し、各FC加盟店舗から、自宅・施設へ届けるルート管理までを一括して行うことで、低価格で安心安全な食事を提供を実現している。毎日食べても飽きないよう、1000種類以上の品目を取り揃えている。

高齢者施設向け食材サービスは、工場で調理した料理を真空パックで凍結しておき、施設で解凍するだけで提供できる。一品、おかずを増やしたい場合や、土曜日も提供したい場合など、利用者が足りない場合に、現在3500カ所以上の高齢者施設に契約している。

料理は工場で大皿二括調理を行っているため、仕入れコストを最小限にでき、1パック約68円と、低価格で提供している。また、1パックから送料無料で利用し、580店舗から、10〜15年で500店舗を目指している。今後も、低価格で高品質な商品提供が、配食サービスの大きな強みである。FC店舗数は現在の約1000店舗で、今後も増え続ける見込みだ。



QRコードを利用した見守り開始

この他、厨房用品の無料レンタルなど、他社ができないことに取組んでいる。配食サービスの強みである。FC店舗数は現在の約1000店舗で、今後も増え続ける見込みだ。

厨房機器の無料レンタルで施設での食事支援

高齢者施設向け食材サービスは、工場で調理した料理を真空パックで凍結しておき、施設で解凍するだけで提供できる。一品、おかずを増やしたい場合や、土曜日も提供したい場合など、利用者が足りない場合に、現在3500カ所以上の高齢者施設に契約している。

また、12月から配食サービス利用者への見守りサービスの提供を開始した。利用者ごとにQRコードを振り分けて、配食時に職員がQRコードを読み取り、家族・ケアマネジャー登録された連絡先に「休職不良」「外出中」問題なしの連絡ができる(写真)。